

【実務経験のある教員等による授業科目の一覧】

学科・学年	配当	講義名称	単位数	代表教員	実務経験をいかした教育内容	必修/選択	講義区分
全学年(2年次生)	後期	統合医療論	1	市瀬 詩子	講師はフランス国立盲学校での音楽活動に演奏家として継続的に参加し、また病院や福祉施設において音楽や身体表現を用いたパフォーマンスを行うなど、統合医療や福祉の分野で非言語コミュニケーションの実践を重ねてきた経験を持つ。加えて、パリを中心に、ヨーロッパのファッション業界において、空間・音楽・食を通じた表現のデザインや、ブランド構築・商品開発・広告制作に携わるなど、分野を横断した多様な実務経験がある。これらの経験をもとに、表現の幅を広げ、医療や福祉の現場で応用できる視点を授業内で提供することを目指している。	選択	
全学年(1年次生)	後期	近畿の歴史と文化	1	豊田 裕章	中等教育の学校現場において、生徒とともに、古墳の調査や、歴史的建造物の大型模型を作成して博物館のような公共的な施設で展示するなどの歴史教育活動を行った。本講義においても、これらの歴史教育活動に言及する。	選択	
全学年(1年次生)	前期	法学	2	吉田 卓司	教員として、スクールソーシャルワーク・スーパーバイザーとして、教育委員会のサポートチーム・緊急支援チーム一員としての多様な実務経験を活かして、医療の専門家として必要な法学的知見の獲得とリーガルマインドの涵養をはかる。	選択	
全学年(1年次生)	前期	ボランティア論	1	中西 英一	これまで様々なボランティア活動に参加してきた。どのようなボランティアとつなげていくのかを実際の体験を通じて講義することが出来る。	選択	
全学年(2年次生)	後期	国際比較福祉論	1	中井 良育	高齢者福祉分野の支援（生活）相談員としての経験を通して、国際比較の必要性について具体的に解説する。	選択	
全学年(1年次生)	前期	健康科学	1	後藤 昌弘	講義を担当する教員はそれぞれ医師、理学療法士、看護師（保健師）の有資格者であり、実務経験をいかした講義内容を基本とする。	選択	
全学年(2年次生)	前期	ホースセラピー	1	杉田 未来	ドイツでの実務経験をもとに、国内の話題のみならず、ドイツにおけるホースセラピー（治療的乗馬：Therapeutisches Reiten）の現状やシステム、実践事例などを紹介する。	選択必修（PO） 選択（NM）	

【実務経験のある教員等による授業科目の一覧】

学科・学年	配当	講義名称	単位数	代表教員	実務経験をいかした教育内容	必修/選択	講義区分
看護学科（1年次）	前期	心理学（N）	1	藤田 雄	本務先で公認心理師、臨床心理士として勤務し研究をしている。学術的かつ、自分を理解するうえで役立つ知識を提供したい。	選択	
看護学科（1年次）	前期	英語Ⅰ（N）	1	佐野 直子	医療現場における通訳経験のある教員が、その経験を活かして、基本的な医療英語を指導する。	必修	
看護学科（1年次）	後期	英語Ⅱ（N）	1	佐野 直子	医療現場における通訳経験のある教員が、その経験を活かして、基本的な医療英語を指導する。	必修	
看護学科（1年次）	後期	体育講義	1	田村 達也	・指導者（JSPOコーチ4、日本サッカー協会A級コーチジェネラル）の経験のある教員が、トレーニング法やコーチング学などの理論と実践について解説する。 ・JOC強化スタッフ（医・科学スタッフ）の経験のある教員が、コンディショニングや心理サポートの理論と実践について解説する。	選択	
看護学科（1年次）	前期	体育実習（N）	1	杉本 七海	・ラグビー選手、チームスタッフとしての経験を基に、長期発達の観点から個々の特性を活かし、協働することで課題に向き合う姿勢、コミュニケーションスキル等を引き出す教育を実践する。 ・幼児～大学生まで、幅広い年代を対象とした、スポーツ及び体育の講師の経験を基に、個々の学生に応じたアプローチ方法を実践する。	選択	
看護学科（1年次）	前期	生化学（N）	1	兼清 健志	生化学を専門とした研究を行っているので、教科書に載っている知識だけでなく、特に医療に関連するような最新の研究成果や動向を紹介することで生化学の必要性や面白さを伝えることができる。	選択	
看護学科（2年次）	後期	代謝栄養学Ⅰ	1	兼清 健志	栄養学を学ぶ上で生化学の知識は必須である。その生化学を専門とした研究を行っているので、教科書に載っている知識だけでなく、特に医療に関連するような最新の研究成果や科学的根拠を交えて解説することで栄養学の必要性や面白さを伝えることができる。	必修	
看護学科（2年次）	後期	代謝栄養学Ⅱ	1	兼清 健志	栄養学を学ぶ上で生化学の知識は必須である。その生化学を専門とした研究を行っているので、教科書に載っている知識だけでなく、特に医療に関連するような最新の研究成果や科学的根拠を交えて解説することで栄養学の必要性や面白さを伝えることができる。	選択	
看護学科（2年次）	後期	薬理学	2	兼清 健志	長年創薬や再生医療の研究をしているので、薬理効果、作用機序についての基礎知識のみならず、最新の研究成果や動向を紹介することで薬理学の必要性や面白さを伝えることができる。	必修	
看護学科（1年次）	後期	病理学（N）	2	山田 義博	病理解剖から得られた知見を講義の随所に述べ学生の病理学の理解の補助とする。	必修	
看護学科（2年次）	前期	病態学Ⅰ（症候論）	1	田中 俊典	実務経験を生かしより臨床に即した内容の講義を行う。	必修	
看護学科（2年次）	前期	病態学Ⅱ（病態生理学）	1	山田 義博	病理解剖から得られた知見を講義の随所に述べ学生の病理学の理解の補助とする。	必修	
看護学科（2年次）	後期	病態学Ⅲ（病態臨床学）	1	田中 俊典	実務経験を生かしより臨床に即した内容の講義を行う。	必修	
看護学科（2年次）	後期	病態学Ⅳ（病態治療論）	1	田中 俊典	実務経験を生かしより臨床に即した内容の講義を行う。	必修	
看護学科（1年次）	後期	看護倫理（N）	1	齋藤 祥乃	教員の臨床現場での看護師活動の経験をもとに授業では具体例を用いて解説する。	必修	
看護学科（2年次）	後期	家族看護論	1	和田 恵美子	0歳から100歳まで見てきた臨床看護師と訪問看護師と保健師の経験を生かし、様々な場面で出会った家族の看護経験を教育内容に盛り込む。	必修	
看護学科（3年次）	前期	がんとターミナルケア	2	梅田 英子	各教員の臨床現場での看護師活動の経験をもとに授業では具体例を用いて解説する。	必修	

【実務経験のある教員等による授業科目の一覧】

学科・学年	配当	講義名称	単位数	代表教員	実務経験をいかした教育内容	必修/選択	講義区分
看護学科（1年次）,健康科学科（1年次）	前期	医療心理学（N・H）	1	近森 聡	心理臨床経験を基にした教育内容を挿入する。	必修	
看護学科（1年次）	前期	公衆衛生学（N）	2	岡本 華奈	診療や病棟勤務経験を活かし、感染症対策、食品衛生、成人・高齢者保健、環境衛生、労働衛生、精神保健について講義する。また、公衆衛生領域での研究活動や国際交流、講義での知見を活かし、公衆衛生行政、国際保健、学校保健、母子保健、疫学関連領域の講義を行う。	選択	
看護学科（3年次）	前期	疫学	2	田路 千尋	保健所勤務経験のある教員が現場における実務や利用の状況も紹介する。	必修	
看護学科（1年次）	後期	保健統計学	2	田路 千尋	保健所における調査実務経験のある教員が、その経験を活かしてデータの収集、解析、結果活用の各段階での対応を解説する。	必修	
看護学科（1年次）	前期	シン・メディカルⅠ（N）	0.5	吉田 卓司	担当する教員は、病院や福祉施設での実務経験がある。病院で行ってきたチーム医療の経験を活かし、講義、演習なども実践的な内容を含めて実施する。	必修	
看護学科（2年次）	後期	シン・メディカルⅡ（N）	0.5	堀 智子	各教員が、臨床におけるチーム医療の経験を活かし、実践的な内容を含めて実施する。	必修	
看護学科（3年次）	前期	シンメディカルⅢ（N）	0.5	黄波戸 航	臨床経験が豊富な教員がその専門的な経験を活かし、学生に助言や指導を行う。	必修	
看護学科（4年次）	後期	シンメディカルⅣ（N）	0.5	林 周子	臨床経験が豊富な教員がその専門的な経験を活かし、学生に助言や指導を行う。	必修	
看護学科（1年次）	前期	看護学概論	2	西上 あゆみ	各教員の臨床現場での看護師活動の経験をもとに授業では具体例を用いて解説する。	必修	
看護学科（1年次）	前期	基礎看護学援助論Ⅰ	2	西上 あゆみ	各教員が病院での看護師経験をいかして、患者とのコミュニケーションの取り方や看護技術などを解説しながら進める。	必修	
看護学科（1年次）	後期	基礎看護学援助論Ⅱ	2	西上 あゆみ	各教員が病院での看護師経験をいかして、患者とのコミュニケーションの取り方や看護技術などを解説しながら進める。	必修	
看護学科（2年次）	前期	基礎看護学援助論Ⅲ	2	西上 あゆみ	各教員が病院での看護師経験をいかして、患者とのコミュニケーションの取り方や看護技術などを解説しながら進める。授業では、実施時のコツや説明の仕方などに関する具体例を経験を交えて教えている。	必修	
看護学科（2年次）	後期	基礎看護学援助論Ⅳ	2	西上 あゆみ	各教員が病院での看護師経験をいかして、患者とのコミュニケーションの取り方や看護技術などを解説しながら進める。当該科目で教授しているフィジカルアセスメントや看護課程の実務経験を有している。授業では、看護問題の立て方や観察の仕方などに関する具体例を経験を交えて教えている。	必修	
看護学科（2年次）	前期	臨床看護総論	1	真鍋 由希	総合病院急性期病棟、慢性期病棟での臨床経験、病院の看護研修センター長として看護師育成に関わった経験を生かした授業を行い、「看護とは」を共に考える（真鍋）急性期病棟をはじめとした臨床での経験をふまえた講義を行い、学生が今後、実際に患者を受け持つことを想像できるように関わる	必修	
看護学科（1年次）	後期	基礎看護学実習Ⅰ	1	西上 あゆみ	各教員が病院での看護師経験をいかして、患者とのコミュニケーションの取り方や看護技術などを解説しながら進める。	必修	
看護学科（2年次）	後期	基礎看護学実習Ⅱ	2	西上 あゆみ	各教員が病院での看護師経験をいかして、患者とのコミュニケーションの取り方や看護技術などを解説しながら進める。	必修	
看護学科（3年次）	前期	看護研究方法論	1	西上 あゆみ	13年間の臨床での経験やこれまで行ってきた研究、研究指導経験を活かし授業を行う。	必修	

【実務経験のある教員等による授業科目の一覧】

学科・学年	配当	講義名称	単位数	代表教員	実務経験をいかした教育内容	必修/選択	講義区分
看護学科（3年次）	前期	看護管理学	1	中野 玲子	看護管理者としての臨床におけるマネジメントの実践と、看護管理者の育成に携わった経験を生かして授業を行う。	必修	
看護学科（3年次）	前期	国際看護学	1	北村 広美	JICAおよび在留外国人支援NGOでの活動経験より、現場情報をできるだけ多く伝えたいと考えている。	必修	
看護学科（4年次）	前期	災害看護学	1	西上 あゆみ	看護協会での災害看護委員会、災害支援ナース活動に加え、学会の災害時の先遣隊メンバーとして被災地の訪問や支援経験を含めて授業を行う。	必修	
看護学科（4年次）	前期	統合看護学実習	2	真鍋 由希	病院での看護師経験をいかして、看護師の行うマネジメント、倫理的問題の解決などに関して解説しながら進める。	必修	
看護学科（4年次）	後期	看護学総合演習	1	本多 容子	各看護学担当教員については、全員に看護職としての実務経験があり、経験を活かした実践的な授業展開を行う。 病理学（山田）：病理解剖から得られた知見を講義の随所に述べ学生の病理学の理解の補助とする。	必修	
看護学科（4年次）	通年	卒業研究（N）	2	本多 容子	看護学担当の教員は全員に看護職としての実務経験があり、経験を活かした研究指導を行う。	必修	
看護学科（2年次）	前期	成人看護学概論	2	梅田 英子	各教員の臨床現場での看護師活動の経験をもとに授業では具体例を用いて解説する。	必修	
看護学科（2年次）	後期	成人看護学援助論Ⅰ	1	林 周子	急性期での臨床経験を有する教員が、基礎となる学問的知識を基に、臨地での経験を活用することで、学生の知的好奇心を刺激し、学習到達目標達成を促す。	必修	
看護学科（2年次）	後期	成人看護学援助論Ⅱ	1	梅田 英子	看護師としての実務経験を活かし、講義・演習やグループワークを行う。	必修	
看護学科（3年次）	前期	成人看護学演習Ⅰ	1	林 周子	急性期での臨床経験を有する教員が、臨地での経験を活用し、より実践的な助言や指導を行う。	必修	
看護学科（3年次）	前期	成人看護学演習Ⅱ	1	梅田 英子	各教員の看護師経験を活用し指導を行う。	必修	
看護学科（3年次）	後期	成人看護学実習Ⅰ	2	林 周子	集中治療、救急を含む急性期での臨床経験を有する教員が、臨地での経験を活用し、専門的且つ実践的な助言や指導を行う。	必修	
看護学科（3年次）	後期	地域・成人看護学実習Ⅰ	1	林 周子	健康管理センター、集中治療、救急を含む急性期での臨床経験を有する教員が、臨地での経験を活用し、専門的且つ実践的な助言や指導を行う。	必修	
看護学科（3年次）	後期	成人看護学実習Ⅱ	2	梅田 英子	担当する教員は、全員が看護実践経験が豊富であるため、経験を活用し指導を行う。	必修	
看護学科（3年次）	後期	地域・成人看護学実習Ⅱ	1	梅田 英子	担当教員は、全員が看護実践経験が豊富であるため、経験を活用し指導を行う。	必修	
看護学科（2年次）	前期	老年看護学概論	2	本多 容子	看護臨床現場での実務経験のある教員が、その経験を活かして、高齢者看護の役割及び高齢者を取り巻く現状や課題について考える授業を実施している。	必修	
看護学科（2年次）	後期	老年看護学援助論	1	堀川 尚子	看護臨床現場での実務経験のある教員が、その経験を活かして、高齢者が治療を受ける過程で必要な看護援助の知識と技術について考える授業を実施している。	必修	

【実務経験のある教員等による授業科目の一覧】

学科・学年	配当	講義名称	単位数	代表教員	実務経験をいかした教育内容	必修/選択	講義区分
看護学科（3年次）	前期	老年看護学演習	2	本多 容子	看護の臨床現場での実務がある教員が、その経験を活かして実践的な高齢者看護について指導する。	必修	
看護学科（3年次）	後期	老年看護学実習	3	堀川 尚子	看護臨床現場での実務経験のある教員が、その経験を活かして、高齢者看護について実践的な実習指導を行う。	必修	
看護学科（3年次）	後期	地域・老年看護学実習	1	本多 容子	看護臨床現場での実務経験のある教員が、その経験を活かして、高齢者看護について実践的な実習指導を行う。	必修	
看護学科（2年次）	前期	小児看護学概論	2	西田 千夏	小児看護の臨床経験を有する教員が、臨床実践につながる小児看護学の知識を教授する。	必修	
看護学科（3年次）	前期	小児看護学活動論	1	西田 千夏	小児看護の臨床経験を有する教員が、臨床実践につながる看護過程、看護技術の知識と技術を教授する。	必修	
看護学科（3年次）	後期	小児看護学実習	2	西田 千夏	小児看護の臨床経験を有する教員が、臨床実践につながる看護過程、看護技術の知識と技術を教授する。	必修	
看護学科（2年次）	前期	母性看護学概論	2	齋藤 祥乃	医科大学附属病院にて助産師で6年勤務した経験と「こんにちは赤ちゃん事業」の家庭訪問3年の経験を活かし、現在の社会問題や環境に即した、女性の一生の健康について広い視野を持ち講義を行っている。	必修	
看護学科（2年次）	後期	母性看護学援助論	1	齋藤 祥乃	医科大学附属病院にて助産師で6年勤務した。（助産師としての分娩介助、NICUの新生児看護）また、産婦人科クリニックでの臨床勤務の兼業も実施している。それらを生かし、シミュレーションなどを取り入れ、より実践的な周産期の看護実践指導に役立てている。	必修	
看護学科（3年次）	前期	母性看護学活動論	1	齋藤 祥乃	医科大学附属病院にて助産師で6年勤務した。（助産師としての分娩介助、NICUの新生児看護）現在、産婦人科クリニックでの臨床勤務の兼業3年している。それらを生かし、シミュレーションなどを取り入れ、より実践的な周産期の看護実践指導に役立てている。	必修	
看護学科（3年次）	後期	母性看護学実習	2	齋藤 祥乃	医科大学附属病院にて助産師で6年勤務した。（助産師としての分娩介助、NICUの新生児看護）また、産婦人科クリニックでの臨床勤務の兼業を実施している。それらを生かし、シミュレーションなどを取り入れ、より実践的な周産期の看護実践指導に役立てている。	必修	
看護学科（2年次）	前期	精神看護学概論	2	藤本 智美	教員の幅広い臨地における経験をもとに授業内容を構成し、実践に活かせる知識および技術の修得を目指す。	必修	
看護学科（2年次）	後期	精神看護学援助論	1	藤本 智美	教員の幅広い臨地における経験をもとに講義の内容を構成し、実践に活かせる知識および技術の修得を目指す。	必修	
看護学科（3年次）	前期	精神看護学活動論	1	藤本 智美	教員の幅広い臨地における経験をもとに授業の内容を構成し、実践に活かせる知識および技術の修得を目指す。	必修	
看護学科（3年次）	後期	精神看護学実習	2	藤本 智美	実習施設の指導者と連携しながら、学生が実習を通して精神看護の知識および技術を効果的に修得できるように支援する。	必修	
看護学科（2年次）	前期	地域・在宅看護学概論	2	和田 恵美子	本科目は、訪問看護師としての経験をもつ教員や介護支援専門員の経験をもつ教員が担当しており、地域で疾病や障害を持ちつつも生活する人々やその家族の健康課題や生活課題への訪問看護実践について具体的に学べる。	必修	
看護学科（2年次）	後期	地域・在宅看護学援助論	2	和田 恵美子	本科目は、訪問看護師、介護支援専門員としての経験をもつ教員が担当しており、地域で疾病や障害を持ちつつ生活する人々やその家族の健康課題や生活課題への訪問看護実践について具体的に学べる。	必修	
看護学科（3年次）	前期	地域・在宅看護学活動論	2	和田 恵美子	本科目は、訪問看護師、介護支援専門員としての経験をもつ教員が担当しており、地域で疾病や障害を持ちつつ生活する人々やその家族の情報収集、アセスメント、健康課題や生活課題への訪問看護実践について具体的に学べる。	必修	

【実務経験のある教員等による授業科目の一覧】

学科・学年	配当	講義名称	単位数	代表教員	実務経験をいかした教育内容	必修/選択	講義区分
看護学科（3年次）	後期	地域・在宅看護学実習	2	和田 恵美子	本科目は在宅看護学に関連の深い介護支援専門員や訪問看護師の職歴のある教員らが担当している。さらに臨床現場で活躍している訪問看護師に同行させていただき、助言をいただくことで、根拠に基づいた理解を深めることができる。	必修	
看護学科（1年次）	後期	公衆衛生看護学概論Ⅰ	1	古澤 朗子	保健師としての実務経験を活かし、事例に基づく講義やレポートの指導を行う。	必修	
看護学科（1年次）	後期	公衆衛生看護学概論Ⅱ	1	古澤 朗子	保健師としての実務経験を活かし、講義やグループワーク、レポートの指導を行う。	選択	
看護学科（2年次）	前期	公衆衛生看護学援助論Ⅰ	2	古澤 朗子	保健師としての実務経験を活かし、講義や演習、グループワークの指導を行う。	選択	
看護学科（2年次）	後期	公衆衛生看護学援助論Ⅱ	2	古澤 朗子	保健師としての実務経験を活かし、講義や演習、グループワークの指導を行う。	選択	
看護学科（3年次）	前期	公衆衛生看護学活動論Ⅰ	2	古澤 朗子	保健師の実務経験を活かし、各分野における保健活動の実際について、事例を用いながら指導していく。	選択	
看護学科（3年次）	前期	公衆衛生看護学活動論Ⅱ	2	古澤 朗子	保健師の実務経験を活かし、各分野における保健活動の実際について、事例を用いながら指導する。	選択	
看護学科（4年次）	前期	公衆衛生看護学統合論	3	古澤 朗子	あらゆる分野における保健師としての実務経験を活かし、講義や演習、グループワークの指導を行う。 事例や経験を匿名資料化し、演習で活用している。	選択	
看護学科（4年次）	通年	公衆衛生看護学実習Ⅰ	4	古澤 朗子	保健師としての実務経験を活かし、実習指導を行う。	選択	
看護学科（4年次）	通年	公衆衛生看護学実習Ⅱ	1	古澤 朗子	保健師としての実務経験を活かし、実習指導を行う。	選択	
看護学科（4年次）	後期	公衆衛生看護学総合演習	1	古澤 朗子	保健師としての実務経験を活かし、演習やグループワークの指導を行う。	選択	
看護学科（2年次）	後期	看護教育方法Ⅰ	2	吉田 卓司	高校教員、看護教育に関わった経験を活かし、効果的な看護教育の授業実践の具体的な方法論を教授し、模擬授業を通じて、個々に応じた指導案の作成と授業展開のアドバイスを行う。	選択	
看護学科（4年次）	前期	看護教育方法Ⅱ	2	吉田 卓司	高校教員、看護教育に関わった経験を活かし、効果的な看護教育の授業実践の具体的な方法論を教授し、模擬授業を通じて、個々に応じた指導案の作成と授業展開のアドバイスを行う。	選択	
看護学科（2年次）	前期	学校保健	2	岩佐 美香	教育現場での経験を活かして子どもの健康課題の変遷、具体的な学校保健活動について講義する。	選択必修	
看護学科（2年次）	後期	養護学概論	2	岩佐 美香	教育現場の実践を活かして養護教諭の歴史、児童生徒の健康実態、養護教諭の執務内容について指導する。	選択	
看護学科（3年次）	前期	健康相談活動論	2	岩佐 美香	・教育現場での経験を活かして保健室における健康相談を事例を通して講義し演習を行う。 ・学校現場における教員経験がある教員が、その経験を活かして、今日的な課題（いじめ問題、不登校等）への対応を指導する。	選択	
看護学科（1年次）,健康科学科（1年次）	前期	教育原論（N・H）	2	吉田 卓司	教員として指導経験、並びにスクールソーシャルワーク事業のスーパーバイザーや教育委員会の学校サポート・緊急支援チームの経験から、今日の教育制度や指導上の課題、学校現場での具体的な問題事例とその対応方法を提示する。	選択	

【実務経験のある教員等による授業科目の一覧】

学科・学年	配当	講義名称	単位数	代表教員	実務経験をいかした教育内容	必修/選択	講義区分
看護学科（1年次）	後期	教職論	2	笹山 幸子	高等学校教員、学校管理職（校長・教頭）、教育委員会首席指導主事・主任社会教育主事としての経験と退職後の教育行政学（修士課程）の研究成果を役立てて、今日的課題の対応を指導する。	選択必修	
看護学科（1年次）,健康科学科（1年次）	後期	教育社会学（N・H）	2	吉田 卓司	教員として指導経験、並びにスクールソーシャルワーク事業のスーパーバイザーや教育委員会の学校サポート・緊急支援チームの経験と教育社会学の視点から、実証的でマクロな問題理解と課題発見・解決ができるよう支援する。	選択必修	
看護学科（1年次）,健康科学科（1年次）	後期	教育心理学（N・H）	2	近森 聡	教員の経験をもとに授業内容を構成し、実践に活かせる知識の修得を目指す。	選択	
看護学科（3年次）	前期	特別支援教育論	1	岩佐 美香	養護実習生、教育実習生の指導経験や障害のある児童生徒の支援など、教員や支援者としての実務経験を活かして、学生の教職系実習が有意義かつ円滑に実施できるように履修学生への教育・指導を徹底する。	選択	
看護学科（2年次）	後期	特別活動・総合的な学習の時間の指導法	2	吉田 卓司	学校（生徒会）行事をめぐる諸課題を解決することを目的として、生徒と保護者と教職員が協働し、自由で民主的な学校づくりに資するような活動計画の立案等のグループワークに取り組む。活動計画のあり方を実践的に議論し、指導計画を作成する際に、教員としての教育実践を活かし、各グループのワークを支援する。	選択	
看護学科（2年次）	後期	生徒・進路指導論	2	吉田 卓司	教員としての生徒指導の経験、及びスクールソーシャルワークのスーパーバイザーとしての実務経験に基づいて、具体事例を参照しつつ、生徒指導・進路指導における基本的事項の実践的理解をはかり、教育的実践力を育成する。	選択	
看護学科（1年次）	後期	教育相談	2	近森 聡	大阪府立高校、支援学校、日本人学校での教諭職の経験と大阪府、兵庫県、私立学校などでのスクールカウンセラーとスクールソーシャルワーカーの経験、大学での学生相談と障害のある学生への支援の経験を活かして実践的な学びの場を提供する。	選択	
看護学科（4年次）	通年	教育実習指導	1	吉田 卓司	高校教員、看護教育に関わった経験を活かし、効果的な教育実習の実施と留意事項を教授し、本講義を通じて、実習の事前準備について個々に応じたアドバイスも行う。	選択	
看護学科（4年次）	後期	教育実習	2	吉田 卓司	教育実習においては、現場の教員を指導教諭として、各校の教育活動のなかで、授業、HR活動の指導に取り組み実践的指導力を涵養する。また、実務経験を有する大学教員も、適宜、授業視察、実習日誌の点検等を行い、実務経験を活かした助言、指導を行う。	選択	
看護学科（4年次）	後期	教職実践演習（高）	2	吉田 卓司	教員としての授業実践、生徒指導、進路指導、特別活動の指導の経験に基づいて、教員としての実践的指導力の涵養を図る。スクールソーシャルワーク事業のスーパーバイザーや教育委員会の学校サポート・緊急支援チームの経験を生かして、今後の学校が抱える課題の理解とその問題解決の展望を履修者が獲得できるよう支援する。	選択	
看護学科（4年次）	前期	養護実習指導	1	岩佐 美香	教育現場の経験を活かして教育実習の目標と内容、実習の全体像、イメージを明確にし実習への意欲を高める。	選択	
看護学科（4年次）	前期	養護実習	4	岩佐 美香	教員としての経験を活かして学校における養護教諭の役割と意義について解説し実習に対する意欲を持たせる。	選択	
看護学科（4年次）	後期	教職実践演習（養護教諭）	2	岩佐 美香	教育者としての経験を活かし、学校現場が求めている教員としての資質能力を養護実習の経験、学習したことを振り返り明らかにしていく。	選択	

合計

154

【実務経験のある教員等による授業科目の一覧】

学科・学年	配当	講義名称	単位数	代表教員	実務経験をいかした教育内容	必修/選択	講義区分
理学療法学科(1年次),作業療法学科(1年次),健康科学科(1年次)	前期	心理学(P・O・H)	1	近森 聡	高等学校、支援学校、日本人学校での教諭経験、小中高、大学でのカウンセラー経験を活かした、実体験に基づく基礎理論の解説を行う。	選択	
理学療法学科(1年次),作業療法学科(1年次),臨床工学科(1年次),健康科学科(1年次)	前期	体育実習(P・O・M・H)	1	大森 基載	スポーツトレーナー、鍼灸師としての経験を活かし、スポーツを実践するだけでなく競技に応じた身体づくりや外傷・障害予防法の考え方なども探究する。	選択	
理学療法学科(1年次)	前期	生体機能構造論実習	1	田中 貴広	四肢の運動器理学療法、神経系の理学療法の経験を基に、生体の構造(解剖学)、機能(生理学)の知見が理学療法にどのように活用されているのか、各授業の終盤で科目と臨床との繋がりを教授する。	選択	
理学療法学科(2年次)	前期	運動生理学	1	大和 洋輔	運動生理学に関する研究を行っている教員がその経験を活かし、運動療法や運動処方に必要な運動生理学に関する講義を行う。	選択	
理学療法学科(2年次)	後期	スポーツ生理学	1	福山 友見	実際にスポーツ現場でメディカルトレーナー活動をしている教員が、実務経験を生かして授業を行う。	選択必修	
理学療法学科(1年次)	後期	運動学	2	杉本 明文	臨床現場での指導経験のある教員が、その経験を活かし関節運動について講義する。	必修	
理学療法学科(2年次)	前期	運動学演習	1	杉本 明文	臨床現場での指導経験のある教員が、その経験を活かし基本動作を中心に講義する。	必修	
理学療法学科(2年次),作業療法学科(2年次)	後期	栄養薬理学(P・O)	1	兼清 健志	栄養学や薬理学を学ぶ上で生化学の知識は必須である。その生化学を専門とした研究を行っているので、教科書に載っている知識だけでなく、特に医療に関連するような最新の研究成果や動向を紹介することで栄養学や薬理学の必要性や面白さを伝えることができる。	必修	
理学療法学科(1年次),作業療法学科(2年次)	後期	病理学(P・O)	2	山田 義博	病理解剖から得られた知見を講義の随所に述べ学生の病理学の理解の補助とする。	必修	
理学療法学科(2年次)	後期	腫瘍病理学	1	山田 義博	腫瘍性疾患の病理診断や病理解剖から得られた知見を授業に反映する。	選択必修	
理学療法学科(2年次),作業療法学科(2年次)	前期	内科学Ⅰ(P・O)	1	坂根 貞樹	授業担当者は総合内科専門医、内科学会指導医、内分泌代謝科専門医・指導医として、30年以上にわたって大学病院および研修指定病院での診療ならびに医学生や研修医を対象とした卒前卒後教育に従事してきた。この経験を生かして、臨床現場に役立つ内容を重視した授業を行う。	必修	
理学療法学科(2年次),作業療法学科(2年次)	後期	内科学Ⅱ(P・O)	1	坂根 貞樹	授業担当者は総合内科専門医、内科学会指導医、内分泌代謝科専門医・指導医として、30年以上にわたって大学病院および研修指定病院での診療ならびに医学生や研修医を対象とした卒前卒後教育に従事してきた。この経験を生かして、臨床現場に役立つ内容を重視した授業を行う。	必修	
理学療法学科(2年次),作業療法学科(2年次)	前期	神経内科学Ⅰ(P・O)	1	田中 俊典	実務経験を生かしより臨床に即した内容の講義を行う。	必修	
理学療法学科(2年次),作業療法学科(2年次)	後期	神経内科学Ⅱ(P・O)	1	田中 俊典	実務経験を生かし、より臨床に即した内容の講義を行う。	必修	
理学療法学科(2年次),作業療法学科(2年次)	前期	整形外科Ⅰ(P・O)	1	金子 晴香	2003年医師免許取得。その後整形外科診療に20年間従事。2011年整形外科学会専門医取得。2012年医学博士。スポーツの現場での医療活動にも従事している。その経験を基に整形外科疾患の診療について指導する。	必修	
理学療法学科(2年次),作業療法学科(2年次)	後期	整形外科Ⅱ(P・O)	1	金子 晴香	2003年医師免許取得。その後整形外科診療に20年間従事。2011年整形外科学会専門医取得。2012年医学博士。スポーツの現場での医療活動にも従事している。その経験を基に整形外科疾患の診療について指導する。	必修	
理学療法学科(2年次),作業療法学科(2年次)	前期	精神医学Ⅰ(P・O)	1	粥川 朋哉	有床総合病院精神科での臨床経験が長く、理学療法士や作業療法士を含む他職種の方々と働いてきたことが教育に生かせればと考えております。できるだけ多くの質問をしていただければと思います。	必修	

【実務経験のある教員等による授業科目の一覧】

学科・学年	配当	講義名称	単位数	代表教員	実務経験をいかした教育内容	必修/選択	講義区分
理学療法学科（1年次）	後期	公衆衛生学概論	1	菊池 唯	病院でのリハビリテーションと訪問リハビリテーションの勤務経験から、臨床現場で行われている公衆衛生の取り組みについて紹介することができる。また、医療介護保障制度についても講義をすることができる。	必修	
理学療法学科（1年次）,健康科学科（1年次）	後期	救命救急学（P・H）	1	福山 友見	臨床業務では、急変時の対応を迫られる場合があり、そのような実例を交えて授業内で紹介する。学生に常に日常で起こり得る状況であることを認識させることができる。	必修	
理学療法学科（3年次）	前期	リハビリテーション医学（P）	1	前田 智香子	さまざまな医療福祉施設において常勤理学療法士・非常勤理学療法士として勤務しリハビリテーションを実践してきた教員が、リハビリテーション医学や代表的な疾患のリハビリテーションについて基本的な事柄を理解できるよう講義する。	必修	
理学療法学科（2年次）,作業療法学科（1年次）,健康科学科（1年次）	前期	社会福祉論（P・O・H）	1	中井 良育	高齢者福祉分野の支援（生活）相談員としての経験を通して、具体的な課題の取組みについて解説する。	必修	
理学療法学科（2年次）,作業療法学科（2年次）	前期	接患・接遇法（P・O）	1	梶本 浩之	4名の担当教員全員が文部科学省後援サービス接遇実務検定試験準1級を取得している。社会人としての基本的な接遇マナーを踏まえつつ、医療現場における接遇マナーを授業内で学ばせることができる。	選択必修	
理学療法学科（1年次）	前期	シン・メディカルⅠ（P）	0.5	安藤 卓	担当する教員は、病院や福祉施設での実務経験がある。病院で行ってきたチーム医療の経験を活かして、講義、演習なども実践的な内容を含めて実施する。	必修	
理学療法学科（2年次）	後期	シン・メディカルⅡ（P）	0.5	山科 吉弘	各教員が、臨床におけるチーム医療の経験を活かして、実践的な内容を含めて実施する。	必修	
理学療法学科（3年次）	前期	シンメディカルⅢ（P）	0.5	何川 渉	臨床経験が豊富な教員がその専門的な経験を活かして、学生に助言や指導を行う。	必修	
理学療法学科（4年次）	後期	シンメディカルⅣ（P）	0.5	森田 恵美子	臨床経験が豊富な教員がその専門的な経験を活かして、学生に助言や指導を行う。	必修	
理学療法学科（1年次）	前期	理学療法学概論	1	寺田 茂	医療機関で34年間、臨床で理学療法士としてリハビリテーション業務に従事。その間に部門管理者としての組織マネジメントや一部で病院経営の戦略委員としてもかかわってきた。その経験を活かし、「理学療法学概論」では理学療法の対象と治療手段について実際の患者を例に挙げてアプローチやリスク管理などの注意点を教授する。また、部門管理や組織としての活動、理学療法士として必要な資	必修	
理学療法学科（1年次）	後期	体表解剖学演習	1	何川 渉	医療・介護現場における臨床経験がある教員が、その経験を活かして講義を行う。	必修	
理学療法学科（2年次）	後期	日常生活活動学演習	1	熊部 翔	実務経験として、病院勤務の際に脳血管疾患、運動器疾患、神経筋疾患（パーキンソン病、脊髄損傷などの疾患）に対する日常生活活動の理学療法評価を実施（FIMなど）していた。また、日常生活活動の運動療法、日常生活活動の指導も実施していた。	必修	
理学療法学科（2年次）	前期	運動療法学	2	森田 恵美子	臨床での経験を活かし、理学療法の最も大きな柱として位置づけられている運動療法について、臨床の場でよく用いられる関節可動域運動、筋力増強運動、持久力運動等の基礎的知識を習得することを目的に実施している。臨床の場で、対象者に対して適切な運動療法を提供するためには、解剖学、生理学、運動学の知識が非常に重要であることを、学生が意識づけできるよう授業を展開している。	必修	
理学療法学科（3年次）	後期	理学療法管理学	2	寺田 茂	医療機関で34年間、臨床で理学療法士としてリハビリテーション業務に従事してきた。その間に部門管理者としての組織マネジメントや一部で病院経営の戦略委員としても関わってきた。その経験を活かし、「理学療法管理学」では安心・安全な医療、理学療法を展開する上で必要な様々な形態の「管理」について教授する。また、部門管理や組織としての活動、医療人として必要な資質についても経験	必修	
理学療法学科（1年次）	後期	理学療法評価学	2	新保 健次	総合病院や介護施設でのリハビリテーション、訪問リハビリテーションなどの臨床経験をもつ理学療法士がその経験を生かし、理学療法評価、検査・測定について講義する。	必修	
理学療法学科（2年次）	前期	理学療法評価学実習	1	新保 健次	総合病院や介護施設でのリハビリテーション、訪問リハビリテーションなどの臨床経験をもつ理学療法士が、その経験を生かし、理学療法の基本的技術である検査・測定の実際を指導する。	必修	
理学療法学科（2年次）	後期	臨床推論	1	平山 朋子	実務経験として、病院勤務の際に脳血管疾患、運動器疾患、神経筋疾患（パーキンソン病など）、脊髄損傷などの疾患）に対する理学療法を実施していた。	必修	

【実務経験のある教員等による授業科目の一覧】

学科・学年	配当	講義名称	単位数	代表教員	実務経験をいかした教育内容	必修/選択	講義区分
理学療法学科（3年次）	前期	臨床推論演習	1	平山 朋子	実務経験として、病院勤務の際に脳血管疾患、運動器疾患、神経筋疾患（パーキンソン病など）、脊髄損傷などの疾患）に対する理学療法を実施していた。	必修	
理学療法学科（2年次）	後期	物理療法学実習	1	田中 貴広	担当教員は、急性期病院にて9年、回復期病院にて12年、物理療法を用いた運動器理学療法、神経系理学療法の経験を有している。また、物理療法を取り扱う学術団体に所属し、常に最新の知識に触れている。それらの経験を生かし物理療法の知識や実践能力の習得につながる講義・実習を行う。	必修	
理学療法学科（2年次）	後期	義肢学	2	前田 智香子	さまざまな医療福祉施設において常勤理学療法士・非常勤理学療法士として勤務し、切断のリハビリテーション、整形疾患への装具療法、脳血管障害への装具療法、脊髄損傷への装具療法を実践してきた教員が、その経験を通して、学生が臨床において理学療法評価を基に義肢装具療法を展開できるセラピストになるよう本物の義肢に触れさせつつ、CKCにおける運動連鎖を理解することを重要視し	必修	
理学療法学科（3年次）	前期	装具学	2	前田 智香子	さまざまな医療福祉施設において常勤理学療法士・非常勤理学療法士として勤務し、切断のリハビリテーション、整形疾患への装具療法、脳血管障害への装具療法、脊髄損傷への装具療法を実践してきた教員が、その経験を通して、学生が臨床において義肢装具療法を展開できるセラピストになるよう本物の装具に触れさせつつ、講義する。	必修	
理学療法学科（2年次）	後期	運動療法学実習	1	安藤 卓	病院勤務や通所施設での様々な対象者への治療経験を活かし、授業内では、運動療法に対する患者の反応や効果なども適宜紹介している。そのため、対健常人への運動療法だけでなく、臨床現場での運動療法のイメージを学生に意識させることができる。授業内では実技練習の時間を多く設け、学生が主体的に実技手技に対する疑問を解決できるようにしている。	必修	
理学療法学科（3年次）	前期	運動器理学療法学	2	熊田 仁	1990年理学療法士免許取得（2015年運動器認定理学療法士取得）。その後大学病院にて18年間勤務。その間、整形外科疾患の術後の管理から運動療法まで数多くの症例を経験してきた。また、クリニック等においても保存治療に対する運動療法に多く携わっていることから、それらの経験を踏まえて解剖学を基本にした考え方を治療に結びつけるよう指導する。	必修	
理学療法学科（3年次）	後期	運動器理学療法学実習	1	熊田 仁	1990年理学療法士免許取得（2015年 運動器認定理学療法士取得）。その後大学病院にて18年間勤務。その間、整形外科疾患の術後の管理から運動療法まで数多くの症例を経験してきた。また、クリニック等においても保存治療に対する運動療法に多く携わっていることから、それらの経験を踏まえて解剖学を基本にした考え方・治療方法を実践に結びつけるよう指導する。	必修	
理学療法学科（3年次）	前期	脳血管理学療法学	2	山科 吉弘	ICUおよび脳卒中センターでの急性期理学療法、ならびにリハビリテーション病院での回復期・維持期理学療法の経験をもとに脳血管疾患における一般的な運動療法の概念について説明する。そして、対象者への理学療法プログラム立案までのプロセスを理解することを目指す。	必修	
理学療法学科（3年次）	後期	脳血管理学療法学実習	1	山科 吉弘	ICUおよび脳卒中センターでの急性期理学療法、ならびにリハビリテーション病院での回復期・維持期理学療法の経験をもとに脳血管疾患における一般的な運動療法の概念について実習させる。そして、対象者への理学療法プログラム立案までのプロセスおよび治療までの流れをペーパーペイシェントを使用し経験させる。	必修	
理学療法学科（3年次）	前期	神経筋理学療法学	2	安藤 卓	担当科目で取り上げる疾患は、パーキンソン病、脊髄小脳変性症、脊髄損傷、筋萎縮性側索硬化症、重症筋無力症、多発性硬化症、ギラン・バレー症候群である。本学に勤務する前は、急性期の総合病院に訪問リハビリテーションや通所施設での理学療法業務に10年以上従事していた。本講義で取り上げる疾患を有する患者に対しては全て理学療法を実施した。この経験を活かし、学生に対して、障がい像、予後、理学療法士の役割がイメージできるような授業内容を提示する。	必修	
理学療法学科（3年次）	後期	神経筋理学療法学実習	1	安藤 卓	担当科目で取り上げる疾患は、パーキンソン病、脊髄小脳変性症、脊髄損傷、筋萎縮性側索硬化症、多発性硬化症、ギラン・バレー症候群である。本学に勤務する前は、急性期の総合病院に訪問リハビリテーションや通所施設での理学療法業務に10年以上従事していた。本講義で取り上げる疾患を有する患者に対しては全て理学療法を実施した。この経験を活かし、学生に対して、障がい像、予後、理学療法士の役割がイメージできるような授業内容を提示する。	必修	
理学療法学科（3年次）	前期	呼吸器系理学療法学	2	山科 吉弘	ICUでの急性期理学療法、ならびにリハビリテーション病院での回復期・維持期理学療法の経験をもとに呼吸器疾患における一般的な運動療法の概念について説明する。そして、対象者への理学療法プログラム立案までのプロセスを理解することを目指す。	必修	
理学療法学科（3年次）	前期	循環・代謝系理学療法学	2	平山 朋子	担当教員は、循環器疾患、代謝疾患における理学療法に関する臨床経験および研究実績を有している。また、代謝疾患における理学療法を取り扱う学術団体に所属しており、常に最新の知識に触れている。それらの経験を生かして、代謝疾患における理学療法の知識や実践能力の習得につながる講義を行う。	必修	
理学療法学科（3年次）	前期	小児理学療法学	2	阪上 奈巳	支援学校や就学前の発達に何らかの支障がある子供たちが通う療育施設等で、主に運動発達機能面での支援を行っており、このような経験を基に、対象児が抱える問題やその対応について、実例をもとに紹介している。	必修	
理学療法学科（3年次）	前期	地域理学療法学	2	高田 昌寛	入院患者におけるリハビリテーション以外に、訪問リハビリテーション、住宅改修の支援（住環境コーディネーター2級取得済）、通所デイサービスなどの地域理学療法に関する業務経験を有する教員が、実務経験にも触れながら地域医療における理学療法士の役割や仕事について講義を行う。	必修	
理学療法学科（3年次）	後期	地域理学療法学演習	1	菊池 唯	担当教員は、訪問リハビリテーションの経験を有している。在宅生活におけるサービス利用者の自分らしい生活を支援した経験を生かし、訪問リハビリテーションや通所リハビリテーションの知識や実践能力の習得につながる講義・演習を行う。	必修	

【実務経験のある教員等による授業科目の一覧】

学科・学年	配当	講義名称	単位数	代表教員	実務経験をいかした教育内容	必修/選択	講義区分
理学療法学科（3年次）	前期	がん理学療法学	2	森田 恵美子	がんに対する理学療法を行ってきた臨床での経験を活かし、臨床の場で理学療法士が多く携わる内容（周術期、白血病、骨転移、リンパ浮腫、悪液質、廃用症候群等）を授業で紹介している。特にがんという疾患について、理学療法士としてどのような視点で患者を評価し治療に結びつけるのかについて、理解を深め、適切な理学療法が施行できる能力を養うことを目指している。	必修	
理学療法学科（3年次）	後期	緩和医療論	1	寺田 茂	三十数年間、理学療法士として臨床業務に従事し様々な疾患や症例を経験してきた。その中で得た知識をもとに実例を通して、緩和ケアにおけるリハビリテーション専門職としての関りについて、具体的なイメージ作りに役立てる。	選択必修	
理学療法学科（2年次）	後期	住環境コーディネーター論	2	高田 昌寛	入院患者における退院前家屋評価や外泊トレーニング等を導入・実施していたリハビリテーション病院に勤務経験のある教員（福祉住環境コーディネーター資格取得者）が、実務経験にも触れながら、住環境整備等の方法等について講義を行う。	選択必修	
理学療法学科（3年次）	前期	スポーツ理学療法論	2	熊部 翔	病院でのスポーツ損傷における理学療法に関する臨床経験および研究実績を有している。この経験を活かして講義・実技など実践的な内容も含めて授業を実施する。	選択必修	
理学療法学科（1年次）,健康科学科（1年次）	通年	障がい者スポーツ特論（P・H）	1	阪上 奈巳	パラスポーツにおいても第一線で活躍している経験から、パラスポーツの魅力について伝えることが出来、活動の場を提供するためのフィールドを学生に紹介することが出来る。またパラスポーツ指導員として実践を通じた知識や技術を指導することが出来る。 【実務経験のある教員等による授業科目】	選択必修	
理学療法学科（1年次）	後期	パーソナルトレーナー論（P）	2	何川 渉	医療・介護・健康増進分野における運動指導経験がある教員が、その経験を活かし講義を行う。	選択必修	
理学療法学科（2年次）	前期	パーソナルトレーナー実習（P）	1	何川 渉	医療従事者、運動指導員（NSCA-CSCS）として医療施設及び教育機関で実務経験のある教員が、解剖学、生理学、運動生理学と関連づけてパーソナルトレーニングのテクニックについて説明する。	選択必修	
理学療法学科（3年次）	後期	健康増進論	1	大和 洋輔	地域住民を対象に健康増進に関する研究および講演を行った経験のある教員が、その経験を活かし健康の維持・向上に必要な知識について講義を行う。	選択必修	
理学療法学科（3年次）	前期	マニュアルセラピー論Ⅰ	1	何川 渉	医療・介護での臨床経験がある教員が、その経験を活かし講義を行う。	選択必修	
理学療法学科（3年次）	後期	マニュアルセラピー論Ⅱ	1	何川 渉	医療・介護現場における臨床経験がある教員が、その経験を活かし講義を行う。	選択必修	
理学療法学科（1年次）	後期	臨床見学実習	1	梶本 浩之	担当教員は急性期や回復期の理学療法実務を10年以上経験し、また臨床実習指導の経験も有している。その経験を活かし理学療法士に必要な資質および技術に対する教育を行う。	必修	
理学療法学科（2年次）	前期	臨床観察実習Ⅰ	1	岩村 真樹	理学療法実務と臨床実習指導経験を有する教員が、その経験を活かし理学療法士に必要な資質（医療専門職における態度・姿勢）に対する教育を行う。	必修	
理学療法学科（2年次）	後期	臨床観察実習Ⅱ	1	岩村 真樹	理学療法実務と臨床実習指導経験を有する教員が、その経験を活かし理学療法士に必要な資質（医療専門職における態度・姿勢）に対する教育を行う。	必修	
理学療法学科（3年次）	前期	臨床評価実習Ⅰ（P）	1	梶本 浩之	理学療法実務を臨床実習指導の経験を有する教員がその経験を活かし理学療法士に必要な資質および技術に対する教育を行う。	必修	
理学療法学科（3年次）	後期	臨床評価実習Ⅱ（P）	4	杉本 明文	臨床現場での指導経験のある教員が、その経験を活かし臨床実習に向けて講義・実習を行う。	必修	
理学療法学科（3年次）	後期	臨床地域理学療法学実習	1	田中 貴広	担当教員は、地域リハビリテーションの経験を有している。また、地域理学療法学の学術団体に所属し、常に最新の知識に触れている。それらの経験を活かし訪問リハビリテーションや通所リハビリテーションの知識や実践能力の習得につながる実習教育を行う。	必修	
理学療法学科（4年次）	前期	臨床総合実習	16	阪上 奈巳	臨床の第一線で活躍されている理学療法士の先生方からこれまでの経験を基に、臨床における学びを通して理学療法士として求められる知識・技術・資質について伝えることができる。	必修	

【実務経験のある教員等による授業科目の一覧】

学科・学年	配当	講義名称	単位数	代表教員	実務経験をいかした教育内容	必修/選択	講義区分
理学療法学科（3年次）	前期	理学療法学研究法演習Ⅰ	1	大和 洋輔	学会発表および論文執筆の経験がある教員が、その経験を活かして研究に関する講義と演習を行う。	必修	
理学療法学科（3年次）	後期	理学療法学研究法演習Ⅱ	1	大和 洋輔	学会発表および論文執筆の経験のある教員が、その経験を活かして、卒業研究を実施するにあたり必要な研究計画の立案や計画書の作成、プレゼンテーションの方法を指導する。	必修	
理学療法学科（4年次）	通年	卒業研究（P）	2	大和 洋輔	医療機関や教育機関にて研究経験のある教員が、卒業研究の手法や論文の書き方、プレゼンテーションの方法などについて指導する。	必修	
合計			105				

【実務経験のある教員等による授業科目の一覧】

学科・学年	配当	講義名称	単位数	代表教員	実務経験をいかした教育内容	必修/選択	講義区分
理学療法学科(1年次),作業療法学科(1年次),健康科学科(1年次)	前期	心理学(P・O・H)	1	近森 聡	高等学校、支援学校、日本人学校での教諭経験、小中高、大学でのカウンセラー経験を活かした、実体験に基づく基礎理論の解説を行う。	選択	
作業療法学科(1年次)	前期	英語Ⅰ(O)	1	佐野 直子	医療現場における通訳経験のある教員が、その経験を活かして、基本的な医療英語を指導する。	必修	
作業療法学科(1年次)	後期	英語Ⅱ(O)	1	佐野 直子	医療現場における通訳経験のある教員が、その経験を活かして、基本的な医療英語を指導する。	必修	
看護学科(1年次),作業療法学科(1年次),健康科学科(1年次)	前期	物理学基礎Ⅰ(N・O・H)	1	簡 直人	所属先では素粒子理論物理学の研究に従事しており、理論物理学の手法を講義内で説明している。	選択	
理学療法学科(1年次),作業療法学科(1年次),臨床工学科(1年次),健康科学科(1年次)	前期	体育実習(P・O・M・H)	1	大森 基載	スポーツトレーナー、鍼灸師としての経験を活かし、スポーツを実践するだけでなく競技に応じた身体づくりや外傷・障害予防法の考え方なども探究する。	選択	
理学療法学科(2年次),作業療法学科(2年次)	後期	栄養薬理学(P・O)	1	兼清 健志	栄養学や薬理学を学ぶ上で生化学の知識は必須である。その生化学を専門とした研究を行っているため、教科書に載っている知識だけでなく、特に医療に関連するような最新の研究成果や動向を紹介することで栄養学や薬理学の必要性や面白さを伝えることができる。	必修	
理学療法学科(1年次),作業療法学科(2年次)	後期	病理学(P・O)	2	山田 義博	病理解剖から得られた知見を講義の随所に述べ学生の病理学の理解の補助とする。	必修	
理学療法学科(2年次),作業療法学科(2年次)	前期	内科学Ⅰ(P・O)	1	坂根 貞樹	授業担当者は総合内科専門医、内科学会指導医、内分泌代謝科専門医・指導医として、30年以上にわたって大学病院および研修指定病院での診療ならびに医学生や研修医を対象とした卒前卒後教育に従事してきた。この経験を生かして、臨床現場に役立つ内容を重視した授業を行う。	必修	
理学療法学科(2年次),作業療法学科(2年次)	後期	内科学Ⅱ(P・O)	1	坂根 貞樹	授業担当者は総合内科専門医、内科学会指導医、内分泌代謝科専門医・指導医として、30年以上にわたって大学病院および研修指定病院での診療ならびに医学生や研修医を対象とした卒前卒後教育に従事してきた。この経験を生かして、臨床現場に役立つ内容を重視した授業を行う。	必修	
理学療法学科(2年次),作業療法学科(2年次)	前期	神経内科学Ⅰ(P・O)	1	田中 俊典	実務経験を生かしより臨床に即した内容の講義を行う。	必修	
理学療法学科(2年次),作業療法学科(2年次)	後期	神経内科学Ⅱ(P・O)	1	田中 俊典	実務経験を生かし、より臨床に即した内容の講義を行う。	必修	
理学療法学科(2年次),作業療法学科(2年次)	前期	整形外科Ⅰ(P・O)	1	金子 晴香	2003年医師免許取得。その後整形外科診療に20年間従事。2011年整形外科学会専門医取得。2012年医学博士。スポーツの現場での医療活動にも従事している。その経験を基に整形外科疾患の診療について指導する。	必修	
理学療法学科(2年次),作業療法学科(2年次)	後期	整形外科Ⅱ(P・O)	1	金子 晴香	2003年医師免許取得。その後整形外科診療に20年間従事。2011年整形外科学会専門医取得。2012年医学博士。スポーツの現場での医療活動にも従事している。その経験を基に整形外科疾患の診療について指導する。	必修	
理学療法学科(2年次),作業療法学科(2年次)	前期	精神医学Ⅰ(P・O)	1	粥川 朋哉	有床総合病院精神科での臨床経験が長く、理学療法士や作業療法士を含む他職種の方々と働いてきたことが教育に生かせればと考えております。できるだけ多くの質問をしていただければと思います。	必修	
理学療法学科(2年次),作業療法学科(1年次),健康科学科(1年次)	前期	社会福祉論(P・O・H)	1	中井 良育	高齢者福祉分野の支援(生活)相談員としての経験を通して、具体的な課題の取組みについて解説する。	選択	
理学療法学科(2年次),作業療法学科(2年次)	前期	接患・接遇法(P・O)	1	梶本 浩之	4名の担当教員全員が文部科学省後援サービス接遇実務検定試験準1級を取得している。社会人としての基本的な接遇マナーを踏まえつつ、医療現場における接遇マナーを授業内で学ばせることができる。	選択必修	
作業療法学科(1年次)	前期	生体機能論Ⅰ(O)	1	林部 美紀	医療従事者として医療施設勤務経験のある教員が病態生理と関連づけてヒトの生理機能について説明する。	必修	

【実務経験のある教員等による授業科目の一覧】

学科・学年	配当	講義名称	単位数	代表教員	実務経験をいかした教育内容	必修/選択	講義区分
作業療法学科（1年次）	前期	生体機能論Ⅱ（O）	1	林部 美紀	医療従事者として医療施設勤務経験のある教員が病態生理と関連づけてヒトの生理機能について説明する。	必修	
作業療法学科（1年次）	後期	生体機能論Ⅲ（O）	1	林部 美紀	医療従事者として医療施設勤務経験のある教員が病態生理と関連づけてヒトの生理機能について説明する。	必修	
作業療法学科（2年次）	後期	基礎運動学実習	1	津田 勇人	病院でのグループOTやイベントの実施、地域での機能訓練やサロン活動の実践といった臨床経験に基づき「運動負荷／リスク管理」や「グループOT」についてわかりやすく解説する。	必修	
作業療法学科（2年次）	後期	精神医学Ⅱ	1	真下 いずみ	精神科領域での臨床経験を活かし、具体的な実践例を講義する。	必修	
作業療法学科（1年次）	後期	救命救急学（O）	1	中井 秀昭	作業療法士として働く現場では時折急変時の対応を迫られる場合があり、そのような実例を交えて授業内で紹介する。それにより、学生は実習などを含み日常的に起こりうる状況であることを認識できる。	必修	
作業療法学科（1年次）,健康科学科（1年次）	後期	臨床心理学（O・H）	1	近森 聡	臨床心理士・公認心理師としてのカウンセラー経験、高等学校・特別支援学校・海外日本人学校での教諭経験をもとに、臨床心理学の基礎理論を具体的、実践的に説明する。	必修	
作業療法学科（3年次）	前期	住環境コーディネート論	2	林部 美紀	担当教員は福祉住環境コーディネーター2級を取得しており、作業療法実践において住宅改修などを経験した知識をもとに教育を行う。	選択必修	
作業療法学科（4年次）	後期	ヘルスプロモーション	1	白井 雅子	高齢者施設や地域でのヘルスプロモーション活動の実践を活かして講義する	必修	
作業療法学科（3年次）	後期	メンタルヘルス論	2	中野 明子	精神科病院や心療内科クリニックにて臨床心理士・公認心理師として患者を支援した経験をもとに、メンタルヘルス関連の事例等を教授する予定である。	選択必修	
作業療法学科（1年次）,健康科学科（1年次）	後期	リハビリテーション医学（O・H）	1	酒井 浩	これまで身体障害分野の作業療法に従事してきた科目担当者の経験を生かし、豊富な実例を交えて、医学的なりハビリテーションの概略がイメージできるように教授する。	必修	
作業療法学科（1年次）	前期	シン・メディカルⅠ（O）	0.5	津田 勇人	担当する教員は、病院や福祉施設での実務経験がある。 病院で行ってきたチーム医療の経験を活かし、講義、演習なども実践的な内容を含めて実施する。	必修	
作業療法学科（2年次）	後期	シン・メディカルⅡ（O）	0.5	宮本 陳敏	各教員が、臨床におけるチーム医療の経験を活かし、実践的な内容を含めて実施する。	必修	
作業療法学科（3年次）	前期	シンメディカルⅢ（O）	0.5	真下 いずみ	臨床経験が豊富な教員がその専門的な経験を活かし、学生に助言や指導を行う。	必修	
作業療法学科（4年次）	後期	シンメディカルⅣ（O）	0.5	尾藤 祥子	臨床経験が豊富な教員がその専門的な経験を活かし、学生に助言や指導を行う。	必修	
作業療法学科（1年次）	前期	作業療法学総論	1	宮本 年也	担当教員は臨床経験豊富な教員を配置しており、臨床場面をリアルに再現する資料・動画を用いた講義が可能である。	必修	
作業療法学科（1年次）	前期	基礎作業学	1	宮本 年也	臨床において、作業に焦点を当てた作業療法介入を行ってきた。単なる工程分析・活動分析ではなく、作業分析を行うことにより、クライアント中心の作業療法を提供できることを実感している。臨床実践での経験を、理論や既存の分析方法と結びつけることにより、実践と学問の関係性を踏まえた思考過程を学生に伝えることができる。	必修	
作業療法学科（1年次）	前期	基礎作業学実習Ⅰ	2	宮本 年也	身体障害者、精神障害者、高齢者を対象とした臨床場面での経験を活かし、授業・指導を行う。	必修	

【実務経験のある教員等による授業科目の一覧】

学科・学年	配当	講義名称	単位数	代表教員	実務経験をいかした教育内容	必修/選択	講義区分
作業療法学科（1年次）	前期	保健医療福祉実習	1	津田 勇人	障害を持ちながら地域生活を送っている方々に支援してきた経験を活かし、授業・指導を行う。	必修	
作業療法学科（3年次）	前期	作業療法管理学	2	宮本 年也	病院・介護保険施設での臨床経験の中で、作業療法部門の管理運営を行っていた。臨床実習指導者講習会において、臨床実習制度論の講義やハラスメント等のグループ討議における世話人（ファシリテーター）を行った経験を有する。これらの経験を活かし、講義を行う。	必修	
作業療法学科（1年次）	後期	作業療法評価学総論	1	津田 勇人	作業療法士免許取得後、国立大学医学部附属病院・公立病院・地域保健事業・訪問リハビリテーション事業所等で身体障害領域の作業療法を20年以上実施してきた臨床経験をいかし、作業療法分野で実施している評価の概要をわかりやすく解説する。	必修	
作業療法学科（2年次）	前期	発達過程評価学演習	2	高畑 脩平	脳性麻痺をはじめとする脳障害を主に対象とする病院での経験や、保健センターでの乳幼児検診、相談事業、慢性疾患児の訪問事業などを通して、心身機能への評価治療、活動の評価に加え、保護者の育児環境などの背景を含めた環境因子を関連させて評価することを身につけている。それらの経験を生かし、発達領域の評価についてより医療専門職としての技能を具体的に教えることができる。	必修	
作業療法学科（2年次）	前期	精神心理評価学演習	2	白井 雅子	精神科病院で勤務した様々な疾患の患者様への評価や治療、多職種間連携事業等の経験を活かし、指導していく。	必修	
作業療法学科（2年次）	前期	作業療法評価学演習Ⅰ	1	宮本 陳敏	科目担当者の経験を生かし、豊富な実例を交えて、演習を展開していく。	必修	
作業療法学科（3年次）	前期	作業療法評価学演習Ⅱ	1	真下 いずみ	各教員自身のこれまでの臨床経験を基に、演習時に適切なアドバイスを行う。	必修	
作業療法学科（3年次）	前期	日常生活・環境評価学演習	2	尾藤 祥子	臨床経験の中で、実際に患者様への福祉用具の選定や適合判定を行っていた。福祉用具専門相談員の指定講習会において、介護保険に定められた福祉用具について選定の方法を学んだ。また、福祉用具プランナーのライセンスを取得しており、これらを医療専門職の技能・知識として、事例を通して学ぶ課題の際には特に生かすことができる。	必修	
作業療法学科（2年次）	前期	作業療法治療学総論	1	酒井 浩	臨床において、作業に焦点を当てた作業療法介入を行ってきた。臨床実践での経験を、理論や既存の分析方法と結びつけることにより、実践と学問の関係性を踏まえた思考過程を学生に伝える。	必修	
作業療法学科（3年次）	後期	作業療法治療学演習	1	高畑 脩平	各教員の臨床経験を活かして実技指導を行う。	必修	
作業療法学科（2年次）	後期	発達過程治療学	1	高畑 脩平	地域活動の一貫として行う、教育委員会での相談事業、保健センターでの乳幼児検診、教育センターでの相談事業での経験をいかし、模擬ケースを使った演習の中で、分析や目標設定、治療プログラム立案を学ばせる際に、より具体的な内容を学生に教えることができる。学校や社会でのタイムリーな問題点について教えることができる。	必修	
作業療法学科（3年次）	前期	発達過程作業療法治療学演習	2	高畑 脩平	地域活動の一貫として行う、教育委員会での相談事業、保健センターでの乳幼児検診、教育センターでの相談事業での経験をいかし、模擬ケースを使った演習の中で、分析や目標設定、治療プログラム立案を学ばせる際に、より具体的な内容を学生に教えることができる。学校や社会でのタイムリーな問題点について教えることができる。	必修	
作業療法学科（2年次）	後期	精神心理治療学演習Ⅰ	2	白井 雅子	実務経験として、精神科病院や精神科デイケアで様々な疾患の方に関わり、地域生活の継続や就労支援のための他職種や他機関との連携をとってきた。この講義では、精神分野の代表的な疾患に対する作業療法について学び、作業療法評価計画が立案できることを目標に事例を通して授業展開している。その中で、疾患ごとの特性や他職種との連携の重要性を示し、精神障害者が地域生活や就労支援を	必修	
作業療法学科（3年次）	前期	精神心理作業療法治療学演習Ⅱ	1	真下 いずみ	実務経験として、精神科病院や精神科デイケアで様々な精神障害をもつ人に関わり、地域生活の継続支援や就労支援に従事してきた。この講義では、作業療法治療計画立案および実施できるスキルを習得できることを目標とする。加えて事例学習を通して臨床感覚を養うことを目標とする。障害特性や他職種との連携の重要性を示し、精神障害者が当たり前で生活できるための作業療法を教授す	必修	
作業療法学科（2年次）	後期	身体障害治療学演習Ⅰ	2	酒井 浩	対象者の多くが脳血管障害である、大学病院・臨床指導実績を生かし、医学的な知識を学ぶにとどまらず、脳血管障害の方へのコミュニケーション方法や、評価、アセスメントについてなど、実践に生かされる演習、実習を行うことができる。同様に臨床経験から、医療専門職としての態度や姿勢についても具体的な例を挙げて学生に示すことができ、興味を持たせることができる。	必修	
作業療法学科（3年次）	前期	中枢性疾患作業療法治療学演習Ⅱ	1	尾藤 祥子	リハビリテーション病院に勤務していた経験を生かし、医学的な知識を学ぶにとどまらず、コミュニケーション方法や、評価、アセスメントについてなど、実践に生かされる演習、実習を行うことができる。同様に臨床経験から、医療専門職としての態度や姿勢についても具体的な例を挙げて学生に示すことができ、興味を持たせることができる。	必修	
作業療法学科（3年次）	前期	中枢性疾患作業療法治療学演習Ⅲ	1	林部 美紀	リハビリテーション病院に勤務していた経験を生かし、医学的な知識を学ぶにとどまらず、コミュニケーション方法や、評価、アセスメントについてなど、実践に生かされる演習、実習を行うことができる。同様に臨床経験から、医療専門職としての態度や姿勢についても具体的な例を挙げて学生に示すことができ、興味を持たせることができる。	必修	

【実務経験のある教員等による授業科目の一覧】

学科・学年	配当	講義名称	単位数	代表教員	実務経験をいかした教育内容	必修/選択	講義区分
作業療法学科（3年次）	前期	骨・関節疾患作業療法治療学演習	2	宮本 陳敏	病院に勤務していた経験を生かし、医学的な知識を学ぶにとどまらず、コミュニケーション方法や、評価、アセスメントについてなど、実践に生かされる演習、実習を行うことができる。	必修	
作業療法学科（3年次）	後期	日常生活・環境作業療法学演習	2	尾藤 祥子	臨床経験の中で、実際に患者様への福祉用具の選定や適合判定を行っていた。福祉用具専門相談員の指定講習会において、介護保険に定められた福祉用具について選定の方法を学んだ。また、福祉用具プランナーの資格を取得している。これらを医療専門職の技能・知識として、事例を通して学ぶ課題の際には特に生かすことができる。	必修	
作業療法学科（2年次）	前期	高齢期作業療法学	1	林部 美紀	これまでに、あらゆる多くの高齢期疾患に対する作業療法を実施した。この経験を活かし、高齢期障害に対する作業療法の役割、必要とされる生活支援を実践するための知識をもとに教育する。 【実務経験のある教員等による授業科目】	必修	
作業療法学科（3年次）	後期	地域作業療法学演習	2	宮本 年也	宮本年也：介護老人保健施設、介護老人福祉施設（特養）、地域の診療所のデイケアで行ってきた経験を伝えたい。さらに、リハビリテーションの制度に関する研究に従事した経験から、近年の制度改定の話を加えながら我が国が目指そうとする今後の地域リハビリテーションの方向性と作業療法士に求められていることを伝えることができる。	必修	
作業療法学科（3年次）	後期	作業療法研究法	1	津田 勇人	折に触れ、身障分野での臨床経験に基づく「事例研究・臨床研究」や博士後期課程で実践した「実験研究」の成果を紹介する。 【実務経験のある教員等による授業科目】	必修	
作業療法学科（2・4年次）	後期	特別支援教育特論	1	高畑 脩平	地域活動の一貫として行う、教育委員会での相談事業、保健センターでの乳幼児検診、教育センターでの相談事業での経験をいかし、模擬ケースを使った演習の中で、分析や目標設定、治療プログラム立案を学ばせる際に、より具体的な内容を学生に教えることができる。学校や社会でのタイムリーな問題点について教えることができる。	選択	
作業療法学科（2年次）	後期	保育学入門	2	尾藤 祥子	保育現場での経験のある教員が、経験を活かし保育者としての必要な知識、技術の教授を行う。	選択	
作業療法学科（2年次）	後期	作業療法と認知症	1	白井 雅子	認知症関連施設での就労経験があり、現在も関連施設での認知症指導を実践しており、その体験を授業内で紹介している。また、現在関わっている施設で学生が見学することができ、最新の知識に触れさせることができる。	選択	
作業療法学科（3年次）	前期	作業療法と認知症演習	1	白井 雅子	認知症関連施設での就労経験があり、現在も関連施設での認知症指導を実践しており、その体験を授業内で紹介している。また、現在関わっている施設で学生が見学することができ、最新の知識に触れさせることができる。	選択	
作業療法学科（3年次）	前期	高次脳機能障害作業療法	1	酒井 浩	臨床において、作業に焦点を当てた作業療法介入を行ってきた。臨床実践での経験を、理論や既存の分析方法と結びつけることにより、実践と学問の関係性を踏まえた思考過程を学生に伝える。	選択	
作業療法学科（3年次）	前期	義肢・装具学	1	津田 勇人	作業療法士免許取得後、国立大学医学部附属病院・公立病院・地域保健事業・訪問リハビリテーション事業所等で身体障害領域の作業療法を20年以上実施してきた臨床経験をいかし、作業療法分野における義肢・装具をわかりやすく解説する。 【実務経験のある教員等による授業科目】	必修	
作業療法学科（2年次）	後期	スポーツ作業療法論	1	中井 秀昭	初級パラスポーツ指導員の申請資格取得	選択	
作業療法学科（2・4年次）	後期	機能神経解剖学演習	1	林部 美紀	病院に勤務していた経験を生かし、臨床経験から、基礎知識をわかりやすく伝えることができる。	選択	
作業療法学科（2・4年次）	後期	職業的作業療法論	1	林部 美紀	林部：就労支援施設にて身だしなみ講座を実施しており、実践がある。 芳賀・金川に関しては就労支援施設で勤務しており、実践も豊富であり、講演や授業等経験もしている。	選択	
作業療法学科（4年次）	後期	作業療法学総合演習	1	酒井 浩	担当教員は国家試験の指導を長年行っており、国家試験の傾向と対策に熟知している。毎年様々な学生に支援しているのでこの学生に応じた国家試験対策を実施できる。	必修	
作業療法学科（2年次）	後期	臨床評価実習Ⅰ（O）	2	白井 雅子	これまでの経験を生かし、豊富な自験例を踏まえて、臨床実習指導者との連携の下、学生指導にあたる。	必修	
作業療法学科（3年次）	後期	臨床地域作業療法実習	1	真下 いずみ	実務経験として、様々な疾患の方々と関わり、地域の医療・保健・福祉の連携を経験してきた専門の教員により、学生が学びやすい環境に配慮した実習施設を選択している。学生一人ひとりが、この恵まれた実習環境の中で、作業療法のあり方や必要性を感じとり、成長できるような指導内容が組み込まれている。	必修	

【実務経験のある教員等による授業科目の一覧】

学科・学年	配当	講義名称	単位数	代表教員	実務経験をいかした教育内容	必修/選択	講義区分
作業療法学科（4年次）	前期	総合臨床実習Ⅰ	6	尾藤 祥子	各領域の作業療法実践と教育の経験から、作業療法の知識・技術・態度について指導を行う。	必修	
作業療法学科（4年次）	前期	総合臨床実習Ⅱ	6	尾藤 祥子	各領域の作業療法実践と教育の経験から、作業療法の知識・技術・態度について指導	必修	
		合計	94				

【実務経験のある教員等による授業科目の一覧】

学科・学年	配当	講義名称	単位数	代表教員	実務経験をいかした教育内容	必修/選択	講義区分
臨床工学科（1年次）	後期	心理学（M）	1	藤田 雄	本務先で公認心理師、臨床心理士として勤務しながら、研究をしている。学術的かつ、自分を理解するうえで役立つ知識を提供したい。	選択	
臨床工学科（1年次）	前期	英語Ⅰ（M）	1	佐野 直子	医療現場における通訳経験のある教員が、その経験を活かして、基本的な医療英語を指導する。	必修	
臨床工学科（1年次）	後期	英語Ⅱ（M）	1	佐野 直子	医療現場における通訳経験のある教員が、その経験を活かして、基本的な医療英語を指導する。	必修	
臨床工学科（2年次）	前期	生理学実習	1	菊池 瞳	臨床現場で臨床工学技士、臨床検査技師として5年以上の実務経験を有した教員が、その経験を生かした実習を実施する。	必修	
臨床工学科（1年次）,健康科学科（1年次）,臨床工学専攻科（1年次）	前期	医学概論（M・H）	1	田浦 晶子	病院勤務での実務経験に基づき、実際に臨床で経験する病態の理解と患者さんへの対応および、それに応じた医療事故につながるトラブルシューティングや健康管理の重要性などについて実例に基づき講義展開をおこなう。	必修	
臨床工学科（2年次）,臨床工学専攻科（1年次）	前期	病理学概論	1	山田 義博	病理解剖から得られた知見を講義の随所に述べ学生の病理学の理解の補助とする。	必修	
臨床工学科（2年次）,臨床工学専攻科（1年次）	後期	感染症・免疫学	1	田浦 晶子	病院勤務での実務経験に基づき、実際に臨床で経験する病態の理解と患者さんへの対応および、それに応じた医療事故につながる問題点などについて実例に基づき講義展開をおこなう。	必修	
臨床工学科（2年次）,臨床工学専攻科（1年次）	前期	臨床薬理学	1	田中 弘一郎	製薬企業における研究統括経験を活かし、医薬の研究開発の実際について具体例を挙げて解説する。	必修	
臨床工学科（1年次）,臨床工学専攻科（1年次）	前期	公衆衛生学（M）	2	岡本 華奈	診療や病棟勤務経験を活かし、感染症対策、食品衛生、成人・高齢者保健、環境衛生、労働衛生、精神保健について講義する。また、公衆衛生領域での研究活動や国際交流、講義での知見を活かし、公衆衛生行政、国際保健、学校保健、母子保健、疫学関連領域講義を行う。	必修	
臨床工学科（2年次）	前期	臨床支援技術学	1	畑中 由佳	臨床工学技士として手術室、人工透析室などでの実務経験を活かし、手指衛生方法から清潔と不潔、移動介助などの医療施設で基本となる知識と技術について講義、実習を行う。	必修	
臨床工学科（3年次）,臨床工学専攻科（1年次）	後期	センシング技術入門	1	五十嵐 朗	医療機器メーカーの開発部門での勤務経験を活かし、医療機器に用いられる電子回路の特徴も踏まえた上で計測論や計測概論の内容につながる講義をする。	必修	
臨床工学科（2年次）	後期	電子工学Ⅰ	1	五十嵐 朗	医療機器メーカーの開発部門での勤務経験を活かし、医療機器に用いられる電子回路の特徴も踏まえた上で計測工学や生体計測装置学Ⅰ・Ⅱの内容につながる講義をする。	必修	
臨床工学科（3年次）	前期	電子工学Ⅱ	1	五十嵐 朗	医療機器メーカーの開発部門での勤務経験を活かし、医療機器に用いられる電子回路の特徴も踏まえた上で計測工学や生体計測装置学Ⅰ・Ⅱの内容につながる講義をする。	必修	
臨床工学科（2年次）	前期	計測論	1	五十嵐 朗	医療機器メーカーの開発部門での勤務経験を活かし、生体計測技術における原理から臨床の現場での使用上の問題点まで講義する。	必修	
臨床工学科（1年次）	前期	シン・メディカルⅠ（M）	0.5	菊池 瞳	担当する教員は、病院や福祉施設での実務経験がある。病院で行ってきたチーム医療の経験を活かして、講義、演習なども実践的な内容を含めて実施する。	必修	
臨床工学科（2年次）	後期	シン・メディカルⅡ（M）	0.5	畑中 由佳	各教員が、臨床におけるチーム医療の経験を活かして、実践的な内容を含めて実施する。	必修	
臨床工学科（3年次）	前期	シンメディカルⅢ（M）	0.5	稲盛 修二	臨床経験が豊富な教員がその専門的な経験を活かして、学生に助言や指導を行う。	必修	

【実務経験のある教員等による授業科目の一覧】

学科・学年	配当	講義名称	単位数	代表教員	実務経験をいかした教育内容	必修/選択	講義区分
臨床工学科（4年次）	後期	シンメディカルⅣ（M）	0.5	山崎 康祥	臨床経験が豊富な教員がその専門的な経験を活かして、学生に助言や指導を行う。	必修	
臨床工学科（3年次）,臨床工学専攻科（1年次）	前期	臨床医学外科総論	2	田浦 晶子	大学病院および一般病院で20年間以上、医師として臨床業務に携わり、保険医療委員としての実務経験も有する。教科書のみでは学ぶことが出来ないような、実際の臨床現場での様々な問題点について、わかりやすく教示している。また、最新医療情報についても提供出来るように対応している。	必修	
臨床工学科（2年次）,臨床工学専攻科（1年次）	前期	臨床医学内科総論	2	田浦 晶子	大学病院および一般病院で20年間以上、医師として臨床業務に携わり、保険医療委員としての実務経験も有する。教科書のみでは学ぶことが出来ないような、実際の臨床現場での様々な問題点について、わかりやすく教示している。また、最新医療情報についても提供出来るように対応している。	必修	
臨床工学科（2年次）	後期	呼吸器病態学	1	田浦 晶子	病院勤務での実務経験に基づき、実際に臨床で経験する病態の理解と患者さんへの対応および、それに応じた医療事故につながるトラブルシューティングなどについて実例に基づき講義展開をおこなう。	必修	
臨床工学科（2年次）	後期	循環器病態学	1	山崎 康祥	国立循環器病研究センターにおける実務経験のある教員が、循環器病態におけるCommon diseasesをはじめとして、臨床工学技士業務（特に人工心肺装置を用いた外科的手術、心臓カテーテル治療）との関連の多い疾患を中心に講義をおこなう。	必修	
臨床工学科（2年次）	後期	腎泌尿器病態学	1	杉浦 寿央	腎臓内科医として、約35年の臨床経験を有している。ほとんどの学生は大学卒業後、病院で臨床工学技士として勤務している。そのため、その臨床経験から、教科書の表面的な記述の説明のみならず、臨床現場ではどのようなことが重要であり、どのようなことが知識として必要とされているのかを共有したいと考えている。	必修	
臨床工学科（3年次）,臨床工学専攻科（1年次）	後期	麻酔集中治療医学	1	田浦 晶子	病院勤務での実務経験に基づき、実際に臨床で経験する病態の理解と患者さんへの対応および、それに応じた医療事故につながる問題点などについて実例に基づき講義展開をおこなう。	必修	
臨床工学科（1年次）	前期	臨床工学概論Ⅰ	1	山崎 康祥	実務経験から、臨床経験に基づき実例を示しながら臨床工学業務全般における基本的な理論の展開と制御管理について講義する。	必修	
臨床工学科（1年次）	後期	臨床工学概論Ⅱ	1	菊池 瞳	臨床現場で臨床工学技士として5年以上の実務経験を有した教員が、その経験を活かして臨床工学技士を目指す学生に臨床工学技士の実際の現場に必要な基礎知識と経験を伝える。	必修	
臨床工学科（3年次）	前期	人工心肺制御学Ⅰ	2	山崎 康祥	国立循環器病センター（現・国立循環器病研究センター）での実務経験のある教員が、人工心肺装置の構成要素に関して、原理・構成のみならず、臨床使用の実際および臨床使用上の課題を含めた講義をおこなう（稲盛・山崎）	必修	
臨床工学科（3年次）	後期	人工心肺制御学Ⅱ	2	山崎 康祥	国立循環器病センター（現・国立循環器病研究センター）での実務経験のある教員が、基本操作および臨床上の課題、臨床例の提示と考察を加えて講義を展開する。	必修	
臨床工学科（3年次）	前期	人工呼吸制御学Ⅰ	2	塩見 一成	今まで30年余り救命センターで呼吸管理に従事していたので、臨床のエピソードも交えながら急性期呼吸管理を中心に授業を行う。教科書に沿った授業であるが、最新の知識、臨床で使用されるガイドラインも取り入れたい。また教育機関にも籍を置いていたので国家試験を意識した小テストを行い知識の定着に務める。	必修	
臨床工学科（3年次）	後期	人工呼吸制御学Ⅱ	2	塩見 一成	今まで30年余り救命センターで呼吸管理に従事していたので、臨床のエピソードも交えながら急性期呼吸管理を中心に授業を行う。教科書に沿った授業であるが、最新の知識、臨床で使用されるガイドラインも取り入れたい。また教育機関にも籍を置いていたので国家試験を意識した小テストを行い知識の定着に務める。	必修	
臨床工学科（3年次）	前期	血液浄化療法学Ⅰ	2	畑中 由佳	血液浄化療法を中心とした5年以上の実務経験を有しており、その経験を活かして血液浄化療法の原理から基礎までを指導する。 【実務経験のある教員等による授業科目】	必修	
臨床工学科（3年次）	後期	血液浄化療法学Ⅱ	2	畑中 由佳	血液浄化療法を中心とした5年以上の実務経験を有しており、その経験を活かして血液浄化療法の基礎から応用までを指導する。 【実務経験のある教員等による授業科目】	必修	
臨床工学科（3年次）	後期	手術実践実習	1	山崎 康祥	国立循環器病センター（現・国立循環器病研究センター）における臨床工学技士勤務経験のある教員が、人工心肺装置の基本的操作および術中管理について実践を通じ学修をすすめる。また臨床で発生した事例の提示と、学外研修施設の利用により、臨床例を再現し能動的に取り組むことで、より理解しやすい教育を展開する。	必修	
臨床工学科（2年次）	後期	生体計測装置学Ⅰ	2	菊池 瞳	臨床現場で生体計測機器を中心とした5年以上の実務経験を有し、その経験を生かして臨床現場における医療計測機器について指導する。	必修	
臨床工学科（3年次）	前期	生体計測装置学Ⅱ	2	菊池 瞳	臨床現場で生体計測機器を中心とした5年以上の実務経験を有し、その経験を生かして臨床現場における医療計測機器について指導する。	必修	

【実務経験のある教員等による授業科目の一覧】

学科・学年	配当	講義名称	単位数	代表教員	実務経験をいかした教育内容	必修/選択	講義区分
臨床工学科（3年次）,臨床工	後期	生体計測機器学実習	1	菊池 瞳	臨床現場で5年以上の実務経験を有した教員や非常勤講師がその経験を生かして臨床現場における生体計測機器の操作技術や点検手法を指導する。	必修	
臨床工学科（3年次）	後期	心血管カテーテル治療学	2	山崎 康祥	国立循環器病研究センターで実務経験のある教員が、教科書に記載されていない内容も含め、実臨床で求められる知識をより具体化し解説する。急性期医療を中心に救急医療の業務に携わっており、心臓カテーテル治療においても幅広い経験と知識を有する。授業では心臓カテーテル治療のみならず、心臓の役割と循環動態の把握についても知識を得ることができる。	必修	
臨床工学科（3年次）,臨床工	後期	臨床工学関連法規	1	菊池 瞳	臨床現場で臨床工学技士として5年以上の実務経験を有した教員が、その経験を活かして臨床工学技士を目指す学生に臨床工学技士の実際の現場に必要な基礎知識と経験を伝える。	必修	
臨床工学科（2年次）	前期	臨床工学演習Ⅰ	1	畑中 由佳	臨床工学技士としての実務経験を活かし、イメージが付きやすいように実例を示しながら第2種ME技術実力検定試験の試験範囲について講義を行う。	必修	
臨床工学科（4年次）	前期	臨床工学特論	1	畑中 祐也	[畑中] 臨床工学技士として急性期病院での臨床経験があり、それを活かして指導する。 [桜井] なし	必修	
臨床工学科（4年次）,臨床工	後期	臨床工学総合演習	1	五十嵐 朗	実務経験に基づき、実際に臨床で経験する病態の理解と、それに応じた機器操作や医療事故につながるトラブルシューティングなどについて実例に基づき講義展開をおこなう。	必修	
臨床工学科（4年次）	前期	臨床実習講義	1	菊池 瞳	臨床経験が5年以上ある技士が中心となりその経験を生かして学生指導を行う。また、実際に臨床の現場で臨床工学技士として指導的立場にある方を特別講師として招き、実際の臨床現場と臨床現場におけるマナーについて実践を踏まえた講義や演習を行う。	必修	
臨床工学科（4年次）	通年	臨床実習Ⅰ（M）	1	菊池 瞳	学外の臨床実習施設では、臨床経験が5年以上ある技士が中心となりその経験を生かして学生指導を行う。また、学内での臨床実習のフォローアップに対しても臨床経験が5年以上ある教員を中心として対応をする。	必修	
臨床工学科（4年次）	通年	臨床実習Ⅱ（M）	1	菊池 瞳	学外の臨床実習施設では、臨床経験が5年以上ある技士が中心となりその経験を生かして学生指導を行う。また、学内での臨床実習のフォローアップに対しても臨床経験が5年以上ある教員を中心として対応をする。	必修	
臨床工学科（4年次）	通年	臨床実習Ⅲ（M）	1	菊池 瞳	学外の臨床実習施設では、臨床経験が5年以上ある技士が中心となりその経験を生かして学生指導を行う。また、学内での臨床実習のフォローアップに対しても臨床経験が5年以上ある教員を中心として対応をする。	必修	
臨床工学科（4年次）	通年	臨床実習Ⅳ（M）	1	菊池 瞳	学外の臨床実習施設では、臨床経験が5年以上ある技士が中心となりその経験を生かして学生指導を行う。また、学内での臨床実習のフォローアップに対しても臨床経験が5年以上ある教員を中心として対応をする。	必修	

合計

56

【実務経験のある教員等による授業科目の一覧】

学科・学年	配当	講義名称	単位数	代表教員	実務経験をいかした教育内容	必修/選択	講義区分
理学療法学科(1年次),作業療法学科(1年次),健康科学科(1年次)	前期	心理学(P・O・H)	1	近森 聡	高等学校、支援学校、日本人学校での教諭経験、小中高、大学でのカウンセラー経験を活かし、実体験に基づく基礎理論の解説を行う。	選択	
理学療法学科(1年次),作業療法学科(1年次),臨床工学科(1年次),健康科学科(1年次)	前期	体育実習(P・O・M・H)	1	大森 基載	スポーツトレーナー、鍼灸師としての経験を活かし、スポーツを実践するだけでなく競技に応じた身体づくりや外傷・障害予防法の考え方なども探究する。	選択	
看護学科(1年次),健康科学科(1年次)	前期	医療心理学(N・H)	1	近森 聡	心理臨床経験を基にした教育内容を挿入する。	選択	
看護学科(1年次),健康科学科(1年次)	前期	教育原論(N・H)	2	吉田 卓司	教員として指導経験、並びにスクールソーシャルワーク事業のスーパーバイザーや教育委員会の学校サポート・緊急支援チームの経験から、今日の教育制度や指導上の課題、学校現場での具体的な問題事例とその対応方法を提示する。	選択	
看護学科(1年次),健康科学科(1年次)	後期	教育社会学(N・H)	2	吉田 卓司	教員として指導経験、並びにスクールソーシャルワーク事業のスーパーバイザーや教育委員会の学校サポート・緊急支援チームの経験と教育社会学の視点から、実証的でマクロな問題理解と課題発見・解決ができるよう支援する。	選択必修(N)、 選択(H)	
看護学科(1年次),健康科学科(1年次)	後期	教育心理学(N・H)	2	近森 聡	教員の経験をもとに授業内容を構成し、実践に活かせる知識の修得を目指す。	選択	
理学療法学科(1年次),健康科学科(1年次)	後期	救命救急学(P・H)	1	福山 友見	臨床業務では、急変時の対応を迫られる場合があり、そのような実例を交えて授業内で紹介する。学生に常に日常で起こり得る状況であることを認識させることができる。	必修	
理学療法学科(2年次),作業療法学科(1年次),健康科学科(1年次)	前期	社会福祉論(P・O・H)	1	中井 良育	高齢者福祉分野の支援(生活)相談員としての経験を通して、具体的な課題の取組みについて解説する。	必修(PH),選択 必修(O)	
理学療法学科(1年次),健康科学科(1年次)	通年	障がい者スポーツ特論(P・H)	1	阪上 奈巳	パラスポーツにおいても第一線で活躍している経験から、パラスポーツの魅力について伝えることが出来、活動の場を提供するためのフィールドを学生に紹介することが出来る。またパラスポーツ指導員として実践を通じた知識や技術を指導することが出来る。	選択必修	
作業療法学科(1年次),健康科学科(1年次)	後期	臨床心理学(O・H)	1	近森 聡	【実務経験のある教員等による授業科目】 臨床心理士・公認心理師としてのカウンセラー経験、高等学校・特別支援学校・海外日本人学校での教諭経験をもとに、臨床心理学の基礎理論を具体的、実践的に説明する。	必修	
作業療法学科(1年次),健康科学科(1年次)	後期	リハビリテーション医学(O・H)	1	酒井 浩	これまで身体障害分野の作業療法に従事してきた科目担当者の経験を生かし、豊富な実例を交えて、医学的なりハビリテーションの概略がイメージできるように教授する。	必修	
臨床工学科(1年次),健康科学科(1年次),臨床工学専攻科(1年次)	前期	医学概論(M・H)	1	田浦 晶子	病院勤務での実務経験に基づき、実際に臨床で経験する病態の理解と患者さんへの対応および、それに応じた医療事故につながるトラブルシューティングや健康管理の重要性などについて実例に基づき講義展開をおこなう。	必修	
健康科学科(3年次)	後期	社会教育経営論II	2	榎井 縁	後半においては、実践の現場に沿った内容で実例を検討する	選択	
健康科学科(2年次)	後期	栄養薬理学(H)	1	兼清 健志	栄養学や薬理学を学ぶ上で生化学の知識は必須である。その生化学を専門とした研究を行っているので、教科書に載っている知識だけでなく、特に医療に関連するような最新の研究成果や動向を紹介することで栄養学や薬理学の必要性や面白さを伝えることができる。	必修	
健康科学科(1年次)	後期	公衆衛生学(H)	1	菊池 唯	訪問リハビリテーションの勤務経験によって、地域住民を対象とした健康増進活動や疾病予防プログラムなどの臨床現場で行われている公衆衛生の取り組みについて紹介することができる。また、医療介護保障制度についても講義をすることができる。	必修	
健康科学科(1年次)	前期	シン・メディカルI(H)	0.5	中井 良育	担当する教員は、病院や福祉施設での実務経験がある。 病院で行ってきたチーム医療の経験を活かし、講義、演習なども実践的な内容を含めて実施する。	必修	
健康科学科(2年次)	後期	シン・メディカルII(H)	0.5	中井 良育	各教員が、臨床におけるチーム医療の経験を活かし、実践的な内容を含めて実施する。	必修	
健康科学科(1年次)	前期	心身健康科学概論	2	後藤 昌弘	大学病院における臨床経験(12年)、認知症予防活動プロジェクト実施経験などの実務経験をいかした授業内容を提供する。	必修	

【実務経験のある教員等による授業科目の一覧】

学科・学年	配当	講義名称	単位数	代表教員	実務経験をいかした教育内容	必修/選択	講義区分
健康科学科（2年次）	前期	スポーツ外傷・障害論	2	田中 貴広	講師はNSCA-CPTの資格を有し、大阪府立枚方高等学校、奈良県立登美ヶ丘行動学校野球部、柏原高等学校バドミントン部などの部員を対象にスポーツ外傷、障害の予防を目的に定期的に指導してきた。これらの実践で指導した内容も交えて教授する。	必修	
健康科学科（2年次）	前期	生活習慣病と身体活動	2	平山 朋子	担当教員は、循環器疾患、代謝疾患における理学療法に関する臨床経験および研究実績を有している。また、代謝疾患における理学療法を取り扱う学術団体に所属しており、常に最新の知識に触れている。それらの経験を生かして、代謝疾患における理学療法の知識や実践能力の習得につながる講義を行う。	必修	
健康科学科（1年次）	前期	体力測定論Ⅰ	2	後藤 昌弘	医療従事者、運動指導員（NSCA-CSCS）として医療施設及び教育機関で実務経験のある教員が、解剖学、生理学、運動生理学と関連づけて体力評価について説明する。	必修	
健康科学科（1年次）	後期	体力測定論Ⅱ	2	鈴木 章	医療従事者（理学療法士）として医療施設および教育機関で実務経験のある教員が、実際の体力測定方法について説明・指導する。	選択	
健康科学科（1年次）	前期	運動処方論Ⅰ	2	後藤 昌弘	医療従事者（理学療法士）、運動指導員（NSCA-CSCS）として医療施設及び教育機関で実務経験のある教員が、解剖学、生理学、運動生理学と関連づけて体力評価について説明する。	必修	
健康科学科（1年次）	後期	運動処方論Ⅱ	2	鈴木 章	医療従事者（理学療法士）として医療施設および教育機関で実務経験のある教員が、解剖学や生理学と関連付けて各運動処方について実践を交え指導する	選択	
健康科学科（2年次）	後期	パーソナルトレーナー論（H）	2	何川 渉	医療・介護・健康増進分野における運動指導経験がある教員が、その経験を活かし講義を行う。	必修	
健康科学科（3年次）	前期	パーソナルトレーナー実習（H）	1	何川 渉	医療従事者、運動指導員（NSCA-CSCS）として医療施設及び教育機関で実務経験のある教員が、解剖学、生理学、運動生理学と関連づけて体力評価について説明する。	必修	
健康科学科（3年次）	前期	スポーツ外傷・障害の評価と救急処置	2	熊部 翔	病院でのスポーツ外傷・障害における臨床経験および研究業績を有している。この経験を活かし講義など実践的な内容も含めて授業を実施する。	必修	
健康科学科（2年次）	前期	心理アセスメント	2	近森 聡	小学校から大学院までの相談活動、高等学校、支援学校の部活動、クラブチーム、スポーツ少年団でスポーツ指導をした経験も活かしながら授業を行う。	必修	
健康科学科（1年次）	後期	身体言語学	1	奥野 衆英	・2015-2107年 藍野大学 統合医療論にてマイムを応用した特別集中講義 4コマ ・2010年-現在までフランスを初めてヨーロッパ、日本でマイムのワークショップ多数 ・2020年 アーツカウンシル東京主催 PKT昌平小学校ワークショップにて子供たちにも10回のワークショップを通して最後に発表までお	選択	
健康科学科（3年次）	後期	健康科学と認知症演習	1	白井 雅子	認知症関連施設での就労経験があり、現在も関連施設での認知症指導を実践しており、その体験を授業内で紹介している。また、現在関わっている施設で学生が見学することができ、最新の知識に触れさせることができる。	選択	
健康科学科（1年次）	後期	健康科学実習Ⅰ	2	中井 良育	高齢者福祉分野、障害者福祉分野における対人援助職の経験、高等学校、支援学校、日本人学校での教諭経験、教員としての指導経験から、地域社会の問題理解と課題発見・解決策を立案できるよう支援する。	必修	
健康科学科（2年次）	前期	健康科学実習Ⅱ	2	中井 良育	高齢者福祉分野、障害者福祉分野における対人援助職の経験、高等学校、支援学校、日本人学校での教諭経験、教員としての指導経験から、地域社会の問題理解と課題発見・解決策を立案できるよう支援する。	必修	
健康科学科（2年次）	後期	健康科学実習Ⅲ	4	中井 良育	高齢者福祉分野、障害者福祉分野における対人援助職の経験、高等学校、支援学校、日本人学校での教諭経験、教員としての指導経験から、地域社会の問題理解と課題発見・解決策を立案できるよう支援する。	必修	
健康科学科（3年次）	前期	健康科学実習Ⅳ	4	中井 良育	高齢者福祉分野、障害者福祉分野における対人援助職の経験、高等学校、支援学校、日本人学校での教諭経験、教員としての指導経験から、地域社会の問題理解と課題発見・解決策を立案できるよう支援する。	必修	
健康科学科（3年次）	後期	運動指導実践	4	後藤 昌弘	医療従事者（理学療法士）、運動指導員（NSCA-CSCS）として医療施設及び教育機関で実務経験のある教員が、解剖学、生理学、運動生理学と関連づけて体力評価について説明する。	選択	

合計

59